

中学校まで子ども手当を支給

平成22年4月分から「児童手当」に代わり「子ども手当」が支給される予定です。

今後、国会で子ども手当法案に関する審議が行われ、支給に関する手続きなどの詳細が決まりますが、審議の結果によっては、内容が変わる可能性もあります。

制度の詳細が分かり次第、本紙、ホームページなどのご案内を予定しています。

▷対象となる子ども

中学校修了までの子ども（15歳に達する日以後の最初の3月31日までにある者）

※所得制限はありません。

▷支給額 子ども1人につき月額13,000円

▷支給月 毎年2月、6月、10月

■問い合わせ先

子育て支援課 ☎0869-26-5947

難聴児に補聴器購入費を助成

軽度・中等度の難聴児に対して、補聴器の購入費を助成します。平成22年4月1日から申請を受け付けます。なお、購入後の申請はできませんので、事前に福祉課へお問い合わせください。

▷対象者

市内在住の両耳の聴力レベルが30dB以上で、

身体障害者手帳の交付の対象とならない18歳未満の難聴児

※所得制限があります。

▷助成内容 補聴器購入費の2/3

■問い合わせ先

福祉課 ☎0869-26-5943

春の交通安全県民大会運動を実施



今年も春の交通安全県民大会運動が4月6日（火）から15日（木）までの10日間、全国一斉に展開され、瀬戸内市においても出発式や市内各地でさまざまな交通安全啓発活動が行われます。

そこで少し交通事故について考えてみましょう。原因の一つに、「自分は大丈夫」という慢心が考えられます。市内で発生する事故をみても、もっとも多くを占める原因はうっかり・ぼん

やり運転です。考えごとや、急いでいるとき、体調不良（風邪薬などの服用中）のときに運転すると、こういう状態になります。ウインカーの出し忘れや信号・車・人の見落としが起り、それが事故につながります。

この運動を機会に、「自分は大丈夫」という気持ちから「自分もいつ交通事故をおこすかわからない」という気持ちに切り替えて、ゆとりある運転、子どもや高齢者にやさしく思いやりのある運転を心掛けるようにお願いします。

■問い合わせ先

地域安全推進室 ☎0869-22-3904

協会けんぽの健康保険料率が改定

中小企業などの従業員やその家族の皆さんが加入している健康保険は、従来、国が運営していましたが、平成20年10月1日に全国健康保険協会が設立され、協会が運営することとなりました。この協会が運営する健康保険の愛称を「協会けんぽ」といいます。

協会けんぽの保険料率については、毎事業年度において都道府県支部ごとに地域の医療費を反映し算定されています。岡山支部の平成22年度保険料率は、右表のとおり改定となります。会社に勤務している人は、平成22年3月分保険料（平成

22年4月末納期分）から、また、任意継続被保険者の人は平成22年4月分保険料から変更となります。なお、介護保険料率についても平成22年3月分（平成22年4月末納期分）から変更されます。

▷新旧保険料率

単位:%

区分	現行	改定後
健康保険料率	8.22	9.38
介護保険料率	1.19	1.50

■問い合わせ先

協会けんぽ岡山支部 ☎086-803-5780

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/>

国民年金保険料が改定

平成22年度における国民年金第1号被保険者の皆さんが納める月々の保険料は15,100円です。

下表のように、保険料は、前払い（前納）したり、口座振替をしたりすると安くなりますので、ぜひご

活用ください。

■問い合わせ先

岡山東年金事務所 ☎086-270-7925

市民課 ☎0869-22-1790

納付方法ごとの支払額（括弧内は現金支払額を基準にした割引額）

単位:円

納付方法		1カ月分	6カ月分	1年分
現金支払	月々	15,100	90,600	181,200
	前納		89,860 (740)	177,980 (3,220)
口座振替	毎月当月末振替	15,050 (50)	90,300 (300)	180,600 (600)
	前納		89,570 (1,030)	177,400 (3,800)

子育て支援の輪

みんなが子育ての一員です

このコーナーでは、瀬戸内市子育て支援ネットワークを構成する関係機関・団体・組織などを紹介します。同ネットワークは、すべての子どもたちの人権を守り、安心して子どもを育てられる地域づくりを目指します。

子育て支援ネットワーク交流会を開催

このコーナーでお伝えしている市内の子育て支援にかかわる機関・団体などから約150人が参加して、2月2日、ゆめトピア長船で第3回瀬戸内市子育て支援ネットワーク交流会が開催されました。



優しい口調ながらも児童福祉への思いを熱く語る松尾学院長

松尾^{のぞみ}学院長（県立津島児童学院）は、21世紀は子どもにとっては受難の時代といわれる中、「専門家のみならず、地域のボランティアに母親の人生相談の役割が求められ、親になる前から子育てに関心を抱かせる教育も重要」と講演。

参加者からは、「教育や地域などで協力し合う機会として、これからの交流会を続けてほしい」との声が寄せられました。